「ベニズワイ(中)生息密度」 深海用のカメラで調査

1000平方メートル内に10～13個体

富山湾を代表する味覚の一つであるベニズワイ資源を保護してゆくために、年間の漁獲量に制限を設ける資源管理の取り組みが、県のかにかご漁業者によって実施されている。今後、資源をより効率的に利用してゆくためには、富山湾におけるベニズワイの資源が豊富に存在するのか、それとも乱獲状態にあるのかを把握しておく必要がある。

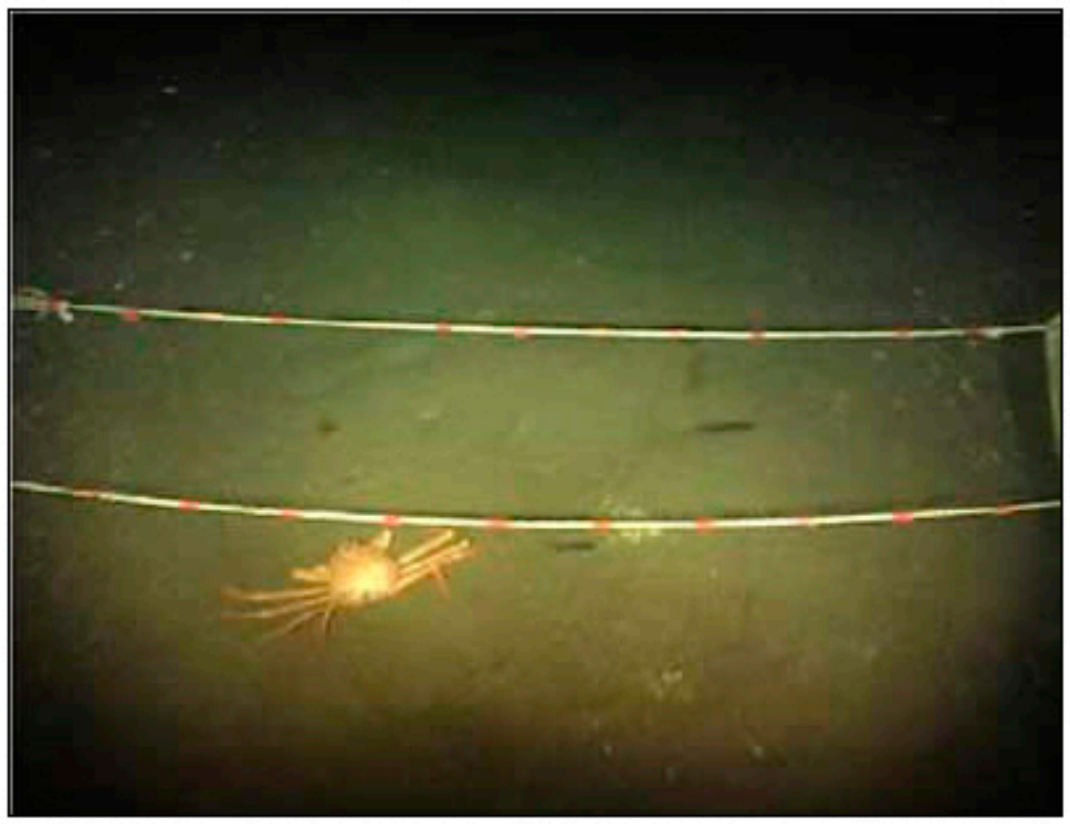
しかし、通常の漁業ではかにかごを用いて大きなオスしか漁獲されておらず、メスも含めた全体の資源量がどれだけ存在するのかは不明である。深海での調査は多くの困難が伴うために、ベニズワイなどの深海生物の生態については、不明な点が非常に多い。

そこで、県水産試験場では平成11～13年の6～8月に、深海用水中ビデオカメラを用いて富山湾におけるベニズワイの生息密度を調査した。

調査船「立山丸」から耐圧製のビデオカメラを海底まで下ろして曳航し、海底の様子を撮影した。調査を行った富山湾中央部の水深は約1,100mと非常に深いため、カメラを海底に下ろし、1時間の撮影の後にカメラを引き揚げる、1回の調査で3時間近くを要する。

ビデオカメラに撮影されたベニズワイの個体数を計数し、調査対象面積を基にして生息密度を求めたところ、1,000 m^2(半径約18mの円の面積に相当)当たり10～13個体のベニズワイが確認された。

これまでに日本海においてベニズワイの生息密度が明らかにされた例は少ないが、今回得られた富山湾の値は、日本海の他の場所と比較して小さかったことから、現在行っている漁獲量制限の取り組みはしばらくは必要だと考えられる。今後も調査を継続し、富山湾のベニズワイ資源の状態を末長く見守ってゆきたい。 (前田経雄)



富山湾中央部(水深約1,100m)において、水中ビデオカメラによって観察されたベニズワイ